

# 金澤北ロータリークラブ

1993年11月18日 第500号

創立20周年記念例会  
第1000回例会 会報第500号

例会日：木曜日 12:30～13:30  
 例会場：金沢市東山1-38-30・松魚亭  
 TEL<0762>52-2271 FAX52-2273  
 事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所  
 TEL<0762>22-2525 FAX24-2882  
 会長：飯野 健志 幹事：渡邊 聡  
 広報委員長：広岡 治樹 会員87名

## クラブ現況

1993年(平成5年)11月18日現在

- (1) クラブ 創 立  
1973年(昭和48年)10月3日
- (2) スポンサークラブ  
金沢東ロータリークラブ
- (3) 国際RC加盟承認  
1973年(昭和48年)11月12日
- (4) 認 証 状 伝 達 式  
1974年(昭和49年)6月16日
- (5) 会 員 状 況  
 創立会員38名  
 現在の会員数 正 会 員 55名  
                   シニアアクチブ 32名  
                   名 誉 会 員 1名
- (6) 友 好 ク ラ ブ  
 京都洛北ロータリークラブ  
                   (1976年7月22日)  
 韓国、南光州ロータリークラブ  
                   (1982年11月1日)  
 相模原南ロータリークラブ  
                   (1989年11月30日)
- (7) 例 会 日 ・ 例 会 場  
 木曜日 12時30分～13時30分  
 松魚亭



金沢北ロータリークラブ点鐘「ドラ」  
会員 魚住 安彦 作

## 記念例会次第

1993年11月18日(木)  
於 金沢東急ホテル

16:30	開 会	司会 例会委員長	長 原 俊 之
	点 鐘	会 長	飯 野 健 志
	国歌斉唱 君が代 韓国国歌		
	ロータリーソング「奉仕の理想」		
	物故会員を偲んで黙祷	故 柴田三郎氏	故 勝田誠一氏
	来賓およびご招待者紹介	会 長	飯 野 健 志
	会長挨拶		
	祝 辞	国際ロータリー第2610地区ガバナー	内 田 一
		金 沢 市 長	山 出 保
	記念事業報告 ビデオ放映	実行委員長	吉 田 富士夫
	目録贈呈		
	ブロンズ像“森の詩”	国立湖南学院院長	水 野 邦 雄
	人間国宝・大場松魚会員の書寄贈	金 沢 市 長	山 出 保
	感謝状授与	国立湖南学院院長	水 野 邦 雄
		金 沢 市 長	山 出 保
	感謝状贈呈 パスト会長		
	木島光仁 清水 忠 鈴木 透 中村三次 吉田富士夫		
	パスト幹事		
	高島菊丸 米沢真二 坂下直人 木村丹二 磯野洋明		
	20周年特別功労者		
	越野民男 大村精二 清水 忠 土原一二		
	ブロンズ像『森の詩』製作		銭 亀 賢 治
	ブロンズ像 企画・題字『森の詩』		吉 田 富士夫
	ニコニコBOX 披露	例会副委員長	佐 藤 正 寿
	点 鐘	会 長	飯 野 健 志
	閉 会		

## 懇親会次第

	尺八とピアノのためのソナタ第一番	司会 北陸放送アナウンサー	八 田 静 穂
	開宴のことば	会 員	鈴 木 透
	乾 盃	実行委員長	吉 田 富士夫
	ご挨拶	ガバナー	内 田 一
		韓国南光州ロータリークラブ会長	鄭 誠 一
		京都洛北ロータリークラブ会長	辻 勘 之
		相模原南ロータリークラブ会長	古 木 益美左
	閉宴のことば	実行副委員長	磯 野 洋 明
19:30	ロータリーソング「手に手つないで」		

# 金沢北RC創立20周年記念例会来賓名簿 ＝敬称略＝

金沢市長	山出 保	友好クラブ	
国立湖南学院院長	水野邦雄	韓国南光州RC 鄭 誠一	会長以下 17名の方
RI第2610地区ガバナー	内田 一	京都洛北RC 辻 勘之	会長以下 19名の方
" パストガバナー	田中嘉太郎	相模原南RC 古木益美左	会長以下 31名の方
" "	桜井能唯		
" "	清水誠三	東京西ロータリークラブ	浅田豊久
石川第一分区代理	根岸一雄	名誉会員	小杉善二
地区幹事	本保健一	元会員	山岸与作
金沢ロータリークラブ	会長 岩 喬	"	山本麒三
	幹事 草野輝久	国際ロータリー交換学生	
金沢東ロータリークラブ	会長 中西弘信	金沢北RC	バルタ・ボヤナ(カナダ)
	副幹事 高桑秀治	金沢東RC	ジュリー・ビオラ(カナダ)
金沢西ロータリークラブ	会長 新村利夫	金沢西RC	デビット・アレン(アメリカ)
	幹事 田川孝三		
金沢南ロータリークラブ	会長 湯沢邦夫	財団法人ロータリー米山記念奨学会奨学生	
	幹事 中島哲夫		馬 琳娜(中国)
金沢香林坊ロータリークラブ	会長 エレクト 山浦克行		
	副幹事 大西喜章		
金沢みなとロータリークラブ	幹事 松本栄一		
	幹事 小堀幸穂		
松任ロータリークラブ	会長 倉重正久		
	幹事 北村 誠		
野々市ロータリークラブ	会長 瀬戸喜久造		
	幹事 柳生好春		
河北ロータリークラブ	会長 塚本伝栄智		

# 友好クラブ来訪者ご芳名 —敬称略—

## 韓国・南光州R.C.

鄭	誠	一	尹	敬	姫	季	庠	根
姜	春	英	林	貞	任	宋	泰	翰
金	峻	成	尹	敬	子	季	泓	範
申	占	植	金	鍾	心	金	順	禮
季	承	采	鄭	惠	蘭	姜	世	雄
吳	斗	三	金	順	泳	金	仁	順

## 京都洛北R.C.

辻	勘	之	大	西	進	尾	崎	欣	哉
田	村	昌	廣	谷	和	伊	藤	祐	介
平	岡	幹	森	勝	敏	杜	下	定	夫
中	西	潔	今	小路	覚	岩	崎	次	郎
岡	崎	善	増	田	良	佐	野	喜	一郎
澤	辺	吉	大	庭	茂	山	田	好	彦
池	田	義	西	村	伊				三男

## 相模原南R.C.

阿	部	昭	男	飯	田	紀	代	晴	虻	谷	康	夫
大	川	兼	司	大	谷	新	一	郎	岡	崎	勝	郎
小	方	嘉	彦	岸	勲	外	次	夫	栗	林	一	郎
桑	田	俊	夫	佐	伯	和	夫	夫	鈴	木	晴	澄
砂	越	隆	侃	寺	門	常	夫	夫	藤	山	国	武
林	部	弘	力	深	野	辰	男	男	古	木	益	美
細	谷	郎	雄	山	崎	一	男	博	小	野	寺	裕
柿	島	陸	子	勝	又	澤	博	子	桜	井	孝	之
内	藤	敏	子	深	阿	部	博	子	坂	本	和	子
虻	谷	真理	子	阿	部	博	子	子	佐	伯	和	子
山	崎			小	方	明	子					

## 金沢北ロータリークラブの 創立20周年を迎えて

会長 飯野 健志

秋菊に佳色あり、秋月明暉を揚ぐ

(陶淵明)



開秋、涼気を兆す今日、私達の金沢北ロータリークラブは、ここに創立20周年を迎えることが出来ましたことを、会員一同共々に大きな歓呼の声を挙げて祝いたいと思います。1973年10月3日、創立会員38名をもってスタートした我がクラブは現在正会員55名、シニアアクチブ32名、名誉会員1名、計88名の堂々たるクラブに発展し、ここに20年の歩みを数えることが出来ました。

これは偏に、歴代会長、幹事、役員ならびに会員一人一人の熱情と奉仕への並々ならぬ御努力によるものであり、我がクラブの誇りとするところであります。20周年は人生にたとえれば成人の刻であり、いよいよ社会の荒波に出す船のように、益々大きなターゲットを掲げ、新たな行動力が要請されるべきでありましょう。創立以来、クラブの組織、委員会名称などに、独特の工夫がなされ、より実質的で活動的な運営が実現し、数々の受賞により、更にアクティブな前進が期待されています。姉妹(友好)クラブは、京都洛北、相模原南、韓国南光州の各クラブと緊密な友好交換を実現して今日に至っています。多彩な芸術家を会員として擁しており、地域内の文化活動や奉仕活動はめざましいものがあります。今後、これを契機として、国際的にも大きくクローズアップされてきた環境問題についても、金沢の他の6クラブともタイアップして、先進的な活動を開始しようとしています。大人のロータリークラブは、これから大きく羽搏かねばなりません。それには、再びわれわれは、ロータリーの原点に立ち返って、本来の王道を進まねばなりません。歴史を積み重ねることは、時として進むべき道を、振り返って矯正する勇気も必要かと思えます。故柴田三郎氏をはじめとして、偉大な諸先輩が遺され示された真のロータリーの道に向って、これから進みたいものだと思っています。全員の友情、全員の一体帰属の精神が、誇り高いクラブへの回帰を促す唯一の手段であります。われわれのものであるロータリーを、われわれの手でもっと大きく、豊かに実らせるよう全員一致で踏み出そうではありませんか。

## 記念事業①

法務省湖南学院寄贈

### ブロンズ像「森の詩」への祈り

吉田 富士夫



世間は今、不況とはいえ、身のまわりには物があふれています。物は豊かにありますが、人の心の中は、豊かでしょうか。

環境問題は各方面で問われていますが、次世代の心の環境はいかがでしょうか。物は豊かでも家庭的に恵まれなかったり、学校を嫌がる少年は増えるばかりです。

早いもので、私が更生する少年の情操面で少しでもお役にたてばと、法務省・湖南学院で及ばずながら美術・絵画指導の奉仕をさせていただくようになって23年の時が流れました。地味な奉仕ですが、金沢北ロータリークラブの各位が共鳴されて、銭亀賢治会員製作のブロンズ像「森の詩」の湖南学院への寄贈が、創立20周年記念事業となりました。

ご賛同と多大な御協力を頂いた会員各位には深い敬意と感謝で胸がいっぱいです。明るく清純な伸びゆく少女と小動物の姿で表現された「森の詩」に込められた善意は、かならず社会へ巣立つ少年の心にこだまするはずです。

## 記念事業②

金沢市立ふるさと偉人館に

### 人間国宝・大場松魚会員の書寄贈

清水 忠

金沢は加賀百万石の城下町であり、兼六園や新旧町並の美しい都市である。しかしその真価は、目に見える美しさを背景で支える文化伝統の中にある。すぐれた人材を明治大正昭和の三代にわたって生み出して来たところにある。

たとえば文化勲章の受章者は8名、人間国宝は当クラブの至宝大場勝魚先生をはじめ7名に及ぶ。いずれも人口比率日本一である。

訪れる観光客は云うに及ばず市民自ら特に時代を担う若い人たちに、そのことを知ってもらいからの発信のよすがにもしたい——そうした趣旨で、このたび金沢市は卯辰山工芸工房に次いで“ふるさと偉人館”を設立した。鈴木大拙をはじめ5名の先人の偉業の紹介と、内外の研究の拠点としての機能を持つものである。

国際、社会、職業三大奉仕部門を柱に、地域への貢献と次世代の育成をモットーとして活動を続けている当クラブは、20周年の節目にあたりこの施設の講堂に人間国宝・大場松魚会員の書一面を寄贈することとした。国際的文化都市金沢への何よりの贈物であり、意義ある快挙である。

会員諸兄のご理解に深謝し、次なる25年へのご努力を期待したい。

## ブロンズ像「森の詩」の除幕式に出席して

湖南学院院生 M・K

今日、ブロンズ像「森の詩」の除幕式が行なわれました。式には、多くの来賓のみなさんが出席され、そして何人ものカメラマンが来ているのを見たとき、とても盛大な式だと驚くとともに、緊張もしました。

僕は、除幕されたブロンズ像「森の詩」を見たとき、すがすがしく、清楚で、しかも優雅な感じを受け、身体が震えました。今まで、こんなになった経験はありません。これが「感動」というのかと思っていると、なんだかとても楽しい気持ちになりました。

ブロンズ像を制作された銭亀先生は、いろいろな事を考えて創られ、「森の詩」と名付けられたと思います。まったく「森の詩」という題名にぴったりな像です。像を眺めていると、静かな森の中にいるような気持ちになります。

僕の湖南学院での生活は、まだ半分程しか経っていません。社会でいいかげんな生活をしていた僕にとっては、ここの生活は厳しいものです。しかし、今後は「森の詩」の少女の姿を見て感動したことを大切にして生活していきます。そして、苦しい事や辛い事があったときの心の支えとして、少女の姿を思い浮かべ、希望をもって残りの院生活に励みます。僕が、湖南学院から出院するときは、ブロンズ像「森の詩」をもう一度じっくり見て除幕式のことを思い出し、湖南学院と少女に別れを告げたいと考えています。

僕が、こんな素晴らしい感動体験ができたり希望を持てたりするのも、ブロンズ像「森の詩」を贈って下さった金沢北ロータリークラブのみなさんや制作して下さった銭亀先生のおかげです。「どうもありがとうございました。」

湖南学院院生 K・O

今日、僕は、初めて除幕式という式に出席しました。除幕式は、テレビで何回か見た事がありましたが、自分が出席できることになるとは、夢にも思っていませんでした。

いざ、除幕式に出席して、像に掛かっている幕が取られる瞬間、なぜか期待と楽しみでドキドキしていました。

幕が取られ、ブロンズ像を見た時、愛らしい少女が座って遠くの山並みを見つめ、その周りには、ウサギ、小鳥や蝶々がいました。僕のイメージでは、もっとごつい男性の像かと想像していましたが、少し驚きました。

その像をよく見ていると、少女のやさしさや希望にあふれた姿、周りの小動物のほのぼのとした雰囲気僕に伝わってきました。何か、気持ちの安まるような、心が洗われるような不思議な気持ちになりました。こんな気持ちになっていたのは、僕だけではなかったと思います。本当にすばらしく立派な像だと思いました。

銭亀先生のお話から、このブロンズ像の名前が「森の詩」ということは解りました。

ブロンズ像「森の詩」は、ここ湖南学院のシンボルです。僕たちは、このシンボルを大切にして行かなければなりません。なぜなら、僕たちは今まで多くの人に迷惑をかけたため、今、湖南学院で生活していますが、「森の詩」には、僕たちに更生への願いが含まれているからです。

そうした願いのこもった「森の詩」の像を贈って下さった、金沢北ロータリークラブの皆様方や銭亀先生の善意には、とても感謝しています。

僕は、まだ仮退院する日まで多くの日数がありますが、湖南学院のシンボルである「森の詩」を見つめていると、「幸せになりなさい」と優しく言われているような気がしてきます。

この優しい言葉に、「もう二度と過ちをおこしません。」と約束しました。

## 金沢北ロータリークラブ20年の歩み(主な事業・活動)

- \* 創立=1973年(S 48年)10月3日⇒国際ロータリー加盟承認(11月12日)
- \* 創立記念事業=ロータリー梅林造成基金を金沢市へ寄付(昭和51年春、ロータリー梅林完成)
- \* 1973(S 48年)10月11日=クラブ会報第一号発行
- \* 1973(S 48年)11月8日=シンボルバナー完成
- \* 1974(S 49年)5月9日=クラブ会旗完成(クラブの基調色=紫紺)
- \* 1974(S 49年)6月16日=認証状伝達式
- \* 1974(S 49年)=金沢桜丘高校・向陽高校へ図書贈呈
- \* 1975(S 50年)4月=「おゝロータリアン……職業奉仕とは」初版発刊
- \* 1976(S 51年)3月27日=城北地区開発促進同盟発足
- \* 1976(S 51年)3月28日「インターシティ・ゼネラルフォーラム」開催
- \* 1976(S 51年)7月22日=京都洛北ロータリークラブと友好提携式(第2650地区)
- \* 1976(S 51年)10月21日=医王園へオムツ、タオル、シーツを寄贈
- \* 1977(S 52年)4月=「おゝロータリアン……ロータリーとは」発刊
- \* 1977(S 52年)12月28日=医王園へテレビを寄付
- \* 1978(S 53年)6月22日=(米国)ヨバ・リンダロータリークラブと友好提携(第5320地区)
- \* 1978(S 53年)10月5日=5周年記念例会
- \* 1979(S 54年)3月30日~4月4日=ヨバ・リンダRC児童絵画展を名鉄丸越にて開催
- \* 1979(S 54年)8月16日=京都洛北RC・金沢北RC合同クラブフォーラム開催
- \* 1980(S 55年)1月23日=道徳の本「ぼくらの町・SOS展」を金沢市へ寄贈
- \* 1981(S 56年)5月4日=城北児童会館へ国旗掲揚塔を寄贈
- \* 1981(S 56年)8月21~24日=少年サッカーチーム訪韓親善試合
- \* 1982(S 57年)8月28~29日=京都洛北RC、金沢北RC少年サッカー友好試合
- \* 1982(S 57年)11月1日=(韓国第3710地区)南光州ロータリークラブと友好提携調印式
- \* 1983(S 58年)10月15日=10周年記念、金沢北地域誌「香我の譜」発刊
- \* 1984(S 59年)5月17日=室生朝子さんと夕食会
- \* 1985(S 60年)9月21~23日=韓国、南光州RC親善訪問
- \* 1986(S 61年)10月10日=ポリオプラス街頭募金キャンペーン
- \* 1987(S 62年)11月12日=京都洛北RCとの電話交歓会
- \* 1988(S 63年)2月25日=韓国、南光州RCとの電話交歓会
- \* 1988(S 63年)10月6日=15周年記念例会
- \* 1989(H 1年)6月29日=「うるおいのまち金沢、卯辰山東山界限」観光案内板を金沢市へ寄贈
- \* 1989(H 1年)11月1日=金沢卯辰山工芸工房竣工(松の木2本寄贈)
- \* 1989(H 1年)11月30日=(第2780地区)相模原南ロータリークラブと友好提携調印式
- \* 1990(H 2年)10月25日=相模原南RC親善懇親会(於:松魚亭)
- \* 1990(H 2年)12月20日=点鐘のドラ完成、金沢北RCの鐘となる
- \* 1991(H 3年)11月23~26日=南光州RCへ友好訪問
- \* 1991(H 3年)12月19日=チャリティ収益金の一部を島原市へ義援金として贈る



- \*1993(H 5年) 6月17日=ブロンズ像「森の詩」を湖南学院へ寄贈(20周年記念事業)青少年育成心の環境
- \*1993(H 5年) 9月16日=「義援基金」ならびに「ご夫人による親睦クラブ」の創設決定
- \*1993(H 5年)10月16、17日=第2610地区大会を開催(ホスト、クラブを務める)
- \*1993(H 5年)11月18日=金沢市ふるさと偉人館に人間国宝・大場松魚会員の書寄贈(20周年記念事業)

歴代会長にお集まりいただき、思い出など簡単なコメントをいただきました。ここに掲載いたします。

**越野 民男さん** (75~76年会長)

当初は特徴あるクラブにしたいという雰囲気が強かったですね。私のころにようやく基礎が出来た、という感じです。

**岡田林太郎さん** (77~78年会長)

それまでの財産を守る、という意識で会長を務めました。遅れた城北地域の発展に寄与したい、とみんな思いましたね。

**土原 一二さん** (80~81年会長)

当初は柴田さんの功績が大きく、みんなそれに付いていった感じですね。始めから出席率もよく、個性あるクラブです。

**大村 精二さん** (83~84年会長)

初めての幹事経験者の若い会長としてさせていただきました。「香我の譜」の出版はとても大きな意味ある事業でした。

**沢田 哲夫さん** (85~86年会長)

韓国の南光州クラブへ姉妹クラブ提携の更新に行くなど、みなさんの築かれた基礎によってやらせていただきました。

**本江他美夫さん** (86~87年会長)

ポリオ撲滅のための募金には色々な苦労がありましたが、その全世界での成果は数年を経て大きなものとなりました。

**俵 外代吉さん** (87~88年会長)

親睦を第一に考え、米・ヨーバリンダRCや韓国の提携クラブからの来訪や「電話例会」などが印象に深く残っています。

**中村 三次さん** (91~92年会長)

地区大会をお引き受けし、その組織づくりをさせていただきました。米・オーランドの国際大会へも行きました。

## 歴代会長・幹事

年 度	出席率(%)	会員数	会 長	幹 事
1973.10~74.6(S 48)	99.10	38	山 田 安 隆	大 村 精 二
1974. 7~75.6(S 49)	100.00	41	山 田 安 隆	大 村 精 二
1975. 7~76.6(S 50)	100.00	45	越 野 民 男	浅 田 豊 久
1976. 7~77.6(S 51)	99.02	44	宗 田 市 太 郎	平 尾 信 明
1977. 7~78.6(S 52)	97.50	44	岡 田 林 太 郎	釣 見 栄 一
1978. 7~79.6(S 53)	98.64	55	若 野 三 朗	吉 山 宥 海
1979. 7~80.6(S 54)	97.32	56	小 杉 善 二	塩 村 喜 代 次
1980. 7~81.6(S 55)	98.04	57	土 原 一 二	山 上 啓 介
1981. 7~82.6(S 56)	99.30	61	大 場 勝 雄	桜 井 健 太 郎
1982. 7~83.6(S 57)	99.22	63	山 岸 与 作	上 田 忠 信
1983. 7~84.6(S 58)	99.30	70	大 村 精 二	佃 一 成
1984. 7~85.6(S 59)	99.75	71	塩 村 喜 代 次	小 間 井 宏 尚
1985. 7~86.6(S 60)	99.80	73	沢 田 哲 夫	米 澤 修 一
1986. 7~87.6(S 61)	99.88	71	本 江 他 美 夫	長 谷 川 塑 人
1987. 7~88.6(S 62)	99.84	76	俵 外 代 吉	本 岡 三 千 郎
1988. 7~89.6(S 63)	99.96	78	木 島 光 仁	高 畠 菊 丸
1989. 7~90.6(H 1)	100.00	83	清 水 忠	米 沢 真 二
1990. 7~91.6(H 2)	99.76	86	鈴 木 透	坂 下 直 人
1991. 7~92.6(H 3)	99.43	86	中 村 三 次	木 村 丹 二
1992. 7~93.6(H 4)	99.33	87	吉 田 富 士 夫	磯 野 洋 明
1993. 7~93.9(H 5)	99.74	87	飯 野 健 志	渡 邊 聰
20年間平均	99.28%			

## 20周年特別功労者

理事、役員として10回（10年）以上務められた方

- (1) 越野 民男君（19回）——会長、理事、分区代理
- (2) 大村 精二君（15回）——会長、幹事、理事
- (3) 清水 忠君（11回）——会長、理事
- (4) 土原 一二君（10回）——会長、理事

20周年記念事業、ブロンズ像「森の詩」製作

- (1) 銭亀 賢治君——ブロンズ像を製作
- (2) 吉田富士夫君——企画・題字「森の詩」を揮毫

## 物故会員（1988. 7～1993. 6）

勝田 誠一

兼六建設(株)社長

1985年2月入会（5年在籍）

平成2年12月3日逝去

柴田 三郎

中外製網(株)会長

1953年3月入会（39年在籍）

平成4年12月27日逝去